



☆☆☆ 学びの羅針盤 ☆☆☆

Learning Compass

きたえ ふれあう 富沢っ子

子どもたちを笑顔で迎え 笑顔にさせ
家庭・地域に帰します！



◇教育目標:夢をもち 未来を拓く子ども

◇重点目標:人・社会・未来とつながるWell-being2023 ~学び・教え合う、認め・高め合う子どもの育成~

走れメロス・走るなメロス

校長 大野 昌広

□メロスの速度はマッハ14？

「メロスは激怒した。」で始まる太宰治の「走れメロス」。中学2年の国語で学習する小説です。太宰作品の中では明るい小説といわれています。さて、この小説のクライマックス部分、さまざまな困難を乗り越えたメロスが再び走り出す場面に「少しずつ沈んでゆく太陽の、十倍も早く走った。」という一節があります。セリヌンティウスとの約束を守るために懸命に走る姿をとえた表現ですが、世の中にはこの一節を頼りにメロスの走るスピードを計算した方がいます。それによれば、地球の赤道の長さは約4万km。小説の舞台は北緯38度付近に位置するイタリアなので約3万kmと計算。地球は一日で一回転するので24時間で約3万km動くとする。すると、その速さは約1300km。メロスは沈んでいく太陽の10倍速いので、時速約13000km。秒速約4.7km。これは、マッハ14に値します。ちなみに陸上100m世界記録保持者のウサイン・ボルトのタイムは9秒58。100mに換算するとメロスは、なんと、100mを0.02秒で走りきります。こんなに速いとさまざまな問題が発生するそうです。まず、空気抵抗。地上を走っているので約380tもの空気抵抗を生身の身体にさらしながら走ることとなります。また、マッハ14で走る人間と衝突した場合、その人間は約1500kmも吹っ飛ばされます。被害はこれにとどまりません。普通の大人くらいの物体がマッハ14で走るとその衝撃波が半径約3kmの範囲に広がります。この範囲内の窓ガラス等はことごとく割れます。だから、「走るなメロス」なのです。

□愛知県に住む中学2年生がメロスの全力を検証

一方で、作品の中に出てくる語句や文章から場所、時刻、距離を計算し、その速度を導き出した中学2年生がいます。自由研究として取り組んだこの生徒は、一般財団法人理数教育研究所の「算数・数学の自由研究コンクール」に応募。タイトルは「メロスの全力を検証」。見事、最優秀賞に輝きました。愛知県岡崎市に住む当時中学2年生のA君、「メロスがどれほどの勢いで10里（約39km）の道を進んだのかを算出し、数値で彼のがんばりを感じたいと思う」というのが自由研究のテーマにした動機だそうです。A君は、「メロスは、すぐに出発した。初夏、満天の星である。」という記述から時間を午前0時、さらに、「一睡もせず十里の道を急ぎに急いで、村へ到着したのは、翌（あく）る日の午前、陽は既に高く昇って、村人たちは野に出て仕事を始めていた。」という記述からその時刻を午前10時と仮定しました。この2点から10里（約39km）の往路の道のりを10時間で到着したと考え、平均時速を3.9km/時と推定しました（平均時速=39km÷10時間）。3日目の復路の速度の算出は、「眼が覚めたのは翌（あく）る日の薄明の頃である。」という記述から時刻は夏至の頃の日の出時間の少し前。イタリア南端は北緯38度付近で仙台市とほぼ同じ。日の出時刻は午前4時12分。したがって、目覚めたのは午前4時と推定。さらに、「メロスは、悠々と身仕度をはじめた。」という記述から出発は午前4時半と仮定しました。出発後、「そろそろ全里程の半ばに到達した頃〜」「太陽も既に真昼時です。」の記述から午後12時には全行程の半分の20kmに到達していたと推定。このことから、平均時速は約2.7km/時としました（20km÷(12-4.5時間)）。A君は、最後に「考察」「感想」として次のように結論を書いています。

上に書いたことを見るとメロスはまったく速くないことがわかります。一般男性の歩行速度は4kmなのでメロスは復路は歩いたことがわかります。そして、メロスが復路の終わりぐらいに最後の死力として、走ったけれども、それはただ速歩きだったということがわかりました。（中略）いつも気にかけないところには、いろいろなナゾがあって、おもしろいと思いました。そして、「走れメロス」というタイトルは、「走れなメロス」のほうが合っているなと思いました。

まったく真逆のメロスの走るスピードに関する考察ですが、ここに、これから子どもたちに求められている学びのヒントが示されていると考えます。それは、教科横断的な視点にたった学びです。これまでの学習は、主にそれぞれの教科でそれぞれの目標に沿った力の育成が行われてきました。これからは、子どもの発達段階を踏まえつつ、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力をすべての教科等で育成していくという視点が最重要とされます。例えば、中学校の例になりますが、国語の「平家物語」の学習の際に、社会の「鎌倉時代」に関する既習内容に触れるというようなことです。上記のメロスの走るスピードでいえば、国語に加え、算数・数学や理科などで習得してきた知識・技能がなければ導くことができません。

本校においても、学習指導要領に示されている学びの有り様（よう）が教室の隅々にしっかりと浸透し、子どもたちの健やかな成長を実現するように努めています。

本校の本年度の重点教育目標は、「人・社会・未来とつながるWell-being2023 ~学び・教え合う、認め・高め合う子どもの育成~」。本年度後半の諸活動においても、引き続き、「つながり」を重視し、一人一人の子どもたちの幸せの実現を目指していきます。良好な人間関係から互いに良い刺激を受け、学習・生活習慣が改善されるように指導してまいります。保護者・地域の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

学芸会

10月21日(土)学芸会には多くの皆様のご来場、本当にありがとうございました。

【げんき学級 金の斧・銀の斧】



【クローバー学級 まつりだぞ】



【華輪十学級 時間の旅】



【みんな】



富沢小学校 秋の学び推進月間

北海道教育委員会は毎年4月と11月を「北海道学び推進月間」と定め、学力向上のための各種事業に重点的に取り組むとともに、家庭学習や読書などを奨励する広報啓発を通して、子どもたちの「確かな学力」の向上を目指しています。本校でも11月を「富

沢小学校 秋の学び推進月間」とし、PTAや外部団体と連携し、出前講座などの事業を数多く行います。また、富沢小学校では、授業内容の確実な定着のために、「宿題+自主学習」を家庭学習ととらえ、子ども達の計画的な学習を推奨しています。

まず、小学1～3年生は、手取り足取り勉強のやり方を教えてあげましょう。押しつけのようを感じるかも知れませんがそれでも大丈夫です。小学4から6年生はテストの日程を意識させるようにしていきましょう。先生や学校によっては、時間割に「テスト」と書いてくれる学校も多いです。テストと書いてあったらその時間に向けて用意するように促します。テストと書いていなくても「そろそろ単元が終わりそうだな」と感じられるようにしましょう。

お子さんにとって一人で勉強することは、「言葉もわからない国にポンと放り出されて左も右もわからない状態で目的地に着く」という感覚です。

そんな中で「どうしよう。〇〇をやってみようか」と寄り添うだけで、心強いものです。

2023/10/15 北海道新聞

日頃より、家庭学習の取組へのご協力ありがとうございます。

ヴォレアスがやってきた



プロバレーボールチーム「ヴォレアス北海道」から檜村 大仁選手と本澤 凌斗選手が富沢小学校の体育館に来ていただきました。

力強いスパイクを打ってくれたり、カッコいいサーブを見せてくれたり、安定したパスを披露してくれたり、優しく質問に答えてくれたりし、子ども達はバレーボールに関心をもつようになりました。

11月の予定

- 2日(木) 緊急地震速報訓練参加
- 3日(木) 文化の日
- 7日(火) 手話出前講座
- 10日(金) 旭複連研究大会(雨紛小)
- 16日(木) キッズデザイン出前授業
- 18日(土) 開校記念日
- 21日(火) 旭川聾学校との交流会
PTA ふれあいお楽しみ会
- 22日(水) 彫刻美術館出前講座
- 23日(水) 勤労感謝の日
- 24日(金) 道北おとぼけキャラバン音楽教室
- 30日(木) クラブ

11月10日(金)は研究大会のため下校時刻に変更があります。(12:45下校)ご都合でお迎えが遅れる場合は、学校で待機していただくことも可能です。事前に学校までご連絡いただけますようお願い申し上げます。